

鬼は外

「渡る世間に鬼は無し」
は温もりを感じさせてくれる言葉です。

例えば、江戸下町の人情に触れたようなほのぼのとした気持ちになります。そんな気持ちになれるのも、“～鬼は無し”だからなのでしょう。

この言葉、敢えて意識をするならば、

“この世の中に鬼なぞはなく、たとえどのような人でも真は優しい心根の持ち主なのですよ。とにかく苦しく辛いことばかり多い人生だけれど、世間に悲観せず、希望を持って生きていきましょう！”

という程の意味でしょうか。思わず心が温まり、元気が湧いてくる良い言葉ではありませんか！

でも、これがもし「渡る世間は鬼ばかり」(TBS制作・橋田壽賀子脚本のテレビドラマ)だったらそうはいかないですよ(笑)。

でも、“鬼”って一体なんなのでしょうか？

また、そもそもそんなものは存在するのでしょうか？

“仕事の鬼”などという言い方もありますね。でも、この鬼は必ずしも怖く恐ろしいという訳ではなさそうです。“仕事の虫”といい換えても良いでしょう。どちらかといえば歓迎すべきスーパーパワーの持ち主というところでしょうか。

ところで、2月は、“鬼は外、福は内”の節分の月ですが、こちらに登場する鬼は恐ろしそうです。

なんとといっても、昔から“鬼は外～”といって追い払うくらいですから。

なお、節分とは文字どおり季節の分かれ目のことです。立春、立夏、立秋、立冬はそれぞれの季節の始まりですが、それらの前日を節分というのです。今年の立春は2月4日ですから、その前の日の2月3日が節分となるわけです。

このような季節の変わり目には邪気が生じ、大地震や飢饉などの災いをもたらされるといわれています。

その邪気をはらうために、立春前日の節分には“鬼は外、福は内”といいながら炒った大豆を鬼に向かって投げつけ、向こう一年間の無病息災、家内安全を祈念するのが、昔からの慣わしです。豆は魔滅(まめ・魔を滅ぼす)につうじるとい

われ、このような豆まきの行事は古く平安時代の追儺(ついな)という儀式に起源を発するといわれています。

また、節分には、焼いた鰯の頭を柊(ひいらぎ)の枝に刺して、それを1ヶ月ほど門口に飾っておく風習もあります。鬼がその生臭い匂いを嫌って寄り付かないからとか、柊の棘が鬼を寄せ付けないからだなどといわれています。

鬼は昔は“隠”(おぬ)と呼ばれ、異界から私たち人間の世界(世間)に侵入してきて人々を苦しめ、この世に害をなす姿の見えないもののことだとされてきました。鬼とは、邪気をはじめ人々に災いをもたらすものすべての総称、或はそのシンボルといってもよいでしょうか。

とにかく人々の安穩を脅かす得たいの知れないものが、“鬼”なのです。

突然ですが、 話しは“鬼のように”(笑)、飛躍します。

“イスラム国”(IS、ISIS、またはISLS)のニュースが連日のようにテレビその他で伝えられています。

彼らは、スンニ派イスラム教原理主義組織で、武力をもって制圧したラッカ(シリア北部の都市・ラッカ県)を首都として、昨年2014/1/3、一方的に独立宣言までしました。

その制圧した地域はシリア、イラクにまたがる広大なものです。しかし当然のことながら国際社会はアルカイード系の単なるテロリスト集団に過ぎないとして、彼らを国家とは認めていません。

彼らの目的はどうやら、第一次世界大戦(1914~1918)の戦勝国(同盟及び連合国)の一員であるイギリスやフランスによって、勝手に線引きされてシリア、イラク、ヨルダンなどに分割(1916/サイクス・ピコ協定・中東の山分け)されてしまったオスマン帝国(1299~1922)の領土を取り返し、そこに厳格なイスラム教国家を再建したいということのようです。言い換えれば、“(欧米列強から押し付けられた)国境は消し去らねばならぬ!”というわけです。

確かに約100年前になされたそのような“中東の山分け”は、アラブ人やクルド人など原住民の意向を無視しているなど乱暴な面があったことも否めないでしょう。また、彼らが引き合いに出す十字軍(キリスト教の軍団で1096年から約200年間にわたりイスラム教を迫害した)にしても常に正義を貫いたわけではないでしょう。

ですから、歴史的に見れば彼らの言い分にも一理ないともまでは言い切れませんし、その気持ちも分からないでもありません。しかし残念ながら戦争の結末というのは概ねそんなものなのかも知れませんね。“イスラム国”は過去からの怨霊?

※“仕事の鬼”というときは、普通、とても仕事熱心である人のことを指しています。その弊害といえば家庭サービスに不足が生まれて、妻や子供からクレームが出るくらいでしょうか?

しかし、仕事の鬼も度が過ぎると、いわゆるモンスター上司になってしまうことがしばしばあります。そんな上司は、部下に対して指導の名目で自分の感情を叩きつけたり、他人の前であっても平然と部下の人格を否定したりすることがあります。このようになってくると、その言動は時に名誉毀損罪(刑法第230条)や侮辱罪(同231条)、場合によっては傷害罪(刑法第204条)などの犯罪を構成したり、損害賠償請求(民法第709条)や労災補償(労働者災害補償保険法)の対象にもなります。

これらはパワーハラスメント(パワハラ)といわれ、次のような類型があるとされています。

- 1 暴行・傷害(身体的な攻撃)
- 2 脅迫・名誉毀損・屈辱・暴言(精神的な攻撃)
- 3 隔離・仲間外し・無視(人間関係からの切り離し)
- 4 不要・不可能なことの強制(過大な要求)
- 5 業務上の合理性なく、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じることや、仕事を与えないこと(過小な要求)
- 6 私的なことに過度に立ち入ること(個の侵害)

もし、このようなパワハラ被害に遭ったときは、

- ・総合労働相談コーナー(各都道府県労働局)
- ・都道府県労働委員会(各自治体)
- ・法テラス(日本司法支援センター・0570-078374)
- ・みんなの人権110番(法務局人権擁護部・0570-003-110)
- ・かいけつサポート(全国社会保険労務士会連合会0570-064-794)

などに相談してみましょう。

何故か、平家武者の亡霊や、豊臣の残党、おまけに平将門まで連想してしまいました(笑)。

でも、“イスラム国”の行動はといえば笑いごとではありません。いかにも傍若無人、残虐非道の極みです。処刑と称する斬首による殺人はいうに及ばず、生きたまま火を放つなどその残忍さは中世のそれさながらです。

彼らはイスラム教国家建設の名の下に破壊と殺戮(さつりく)を平然と繰り返す卑劣なテロリスト集団といえるでしょう。

ここで再度、鬼の話に戻ります(笑)。

※時効という法制度があります。

例えば普通の金銭貸借などを原因とする債権は、原則として10年放置すると消滅してしまいます(消滅時効・民法第167条)。また、他人の物(土地など)でも、20年間、所有の意思をもって、平穩に、かつ、公然と占有しているとその物(土地など)の所有権を取得することができます(取得時効・民法第162条第1項)。

また、刑事裁判による判決が確定してから一定期間(無期の懲役又は禁錮については30年、10年以上の有期の懲役又は禁錮については20年など)その刑が執行されなかった場合には(その執行のために拘束されるなどの中断事由がない限り)時効が完成して、その刑の執行を免除されます(刑の時効・刑法第31条)。

これとは別に、犯罪を犯した時から一定の期間、たとえば死刑に当たる罪(ただし、人を死亡させた罪を除く)については25年、長期15年未満の懲役に当たる罪については7年を経過すると公訴の提起(裁判所に対して裁判を請求すること)ができなくなります(公訴時効・刑事訴訟法第250条以下)。

このような時効制度が設けられた理由としては、長い時間が経過してしまうと証拠資料が散逸してしまったり、証人の記憶が薄らいでしまったりして、その結果、事実も曖昧になってしまうからとか、被害感情も薄らぐからだとか、或いは一定の権利があっても漫然と長期間放置した者(権利上に眠る者)を法律は保護しないのだなどといわれています。

また、一定の事実関係が長期間にわたって平穩に続く人々の暮らしも自然とその状態を受け容れるようになり、やがては社会もその状態で、事実上、安定します。このような社会の安定(平和)を遠い過去の出来事を持ち出して崩してしまうことまでも“法”は望んでいるのでしょうか?遠い過去の出来事はたとえそれが違法だったとしても、現に目の前に在る社会の安定(平和)も大切なものとして護っていくというのが時効制度の思想だともいえるでしょう。

“イスラム国”(IS、ISIS、またはISLS)は、本文に触れたとおり、約100年前の列強による「中東の山分け」(サイクス・ピコ協定)により勝手につくられた国境は無効だと主張しているようです。“時効”だなどと小賢いことをいうつもりはありません。「中東の山分け」が横暴であったことに弁解の余地はないでしょう。しかし、すでに約一世紀を経てそれなりに世界の秩序が形成されつつある現在、武力・殺戮を繰り返す方法によってその主張を実現しようとする“イスラム国”には到底賛成できません。

その姿形や現れ方はさまざまですが、残念ながら現代社会にも“鬼”は存在します。はい、そうです。その大将は、今やなんとといっても断然、“イスラム国”でしょう!

「“イスラム国”は、歴史という時の壁を超えて異界から現代社会へやって来た、イスラム教狂信者の集団とも、単なるテロリストとも何とも得体の知れぬ怨霊の集団であって、人々の安穩を脅かす侵入者だ」、といてもよさそうです。どうです、“鬼”、それも十分に大将の資格(笑)はありそうですしょう?

この鬼の大将は、健全なムスリムとは似て非なる巨大な異形細胞といえます。困ったことに煎り大豆や鯛終では退散しそうもありません。とりあえずは強力な抗がん剤などの投与も止むを得ないでしょうが、根治療法としては各国、各民族が一致協力して全世界の体質改善を着実に進めていくことが何よりも大切なのではないのでしょうか。

ところで、邪気(鬼)が生じるのはなにも季節の変わり目に限らないようで、結婚、離婚、転職、住居移転、更には世代替わり(相続)など、個々人の人生の変わり目も要注意のようです。

ケースバイケースでしょうが、鬼の被害を避け、また自身が鬼にならぬためには、次の二点に気をつけるのがよいでしょう。

- ① 何事に限らず(長男だからとか、先輩だからとか、或いはお金持ちだからといって)、力に任せて事を強引に押し進めたりせず、親兄弟、友人たちなど四圍の人たちの意向を尊重すること。
- ② 過去にこだわって他人の過ちを責めたりすることなく、今の現実を直視し、その現実を踏まえて将来を設計・建設をすること。

以上、老婆心ながら(笑)。福はあ〜内。